

# 学びの風便り

リーディングスクール通信 15 R5.12.31

発行：松本市教育委員会 教育研修センター



## 特集！学びの改革のあゆみ 寿小学校・波田中学校

### 寿小学校



「子どもの主体性」をキーワードに、自ら課題を見つけ、進んで解決に向かっていく「自律した学習者」の育成を目指し、単元内自由進度学習の実践を進める寿小学校。11月20日（月）には、1年生と5年生で授業を公開し、市内から多くの先生方が参観に来られました。

#### 【自ら計画を立てて学ぶ 1年生の子どもたち】

1年生では、仲間と一緒に、自分の計画を自分のペースで進める学びを「マイペース学習」と名付け、算数「かたちづくり」で初めての自由進度学習に挑戦しました。

Aさんは、「よし！やるぞ」と言いながら保管庫からICT端末を出し、始業前から課題に取り組みました。そして、複数の三角形を使って形をつくる課題に挑戦しました。途中、ICT端末で学習カードのQRコードを読み取り、担任が作成した「お助け動画」を見たり、友達と相談したりしながら時間をかけて納得がいくまで考えました。

終わりのチャイムが鳴っても活動し続けていたAさんは、「むずかしかったことがたのしかった」と振り返りました。課題解決を推し進めるための思考力・判断力・表現力を活躍させて問題解決に立ち向かい、粘り強く学び進もうとするAさんの姿でした。



学び方を決めるAさん

#### 【今年度二度目の単元内自由進度学習を行う 5年生の子どもたち】

5年生は、算数「平均とその利用」、保健「けがの防止」の2教科同時進行の「マイプラン学習」を行いました。本時、算数を選択した子どもたちは、体験学習コーナーで水や砂を操作しながら「均（なら）す」言葉の意味を実感しました。

Bさんは、均した一個分の大きさについて説明する問題で、体験学習コーナーでの体験から学んだことが活用できることに気づきました。そして、学習カードの図に線や言葉を加え、思考を凝らしながら説明を書きました。頭の中にあるいくつかの“既習事項”という名の道具の中から、これが使えそうだと拾ってきて解くといったように、「既習と問題を結びつける」Bさんの姿でした。



体験学習コーナーで学ぶ姿

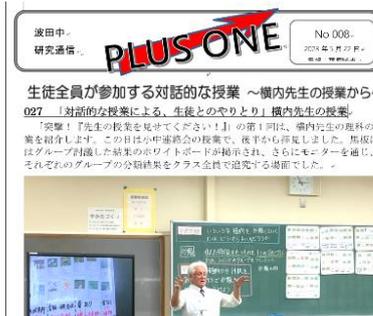
担任のA先生は、「このごろ子どもたちは、誰かに言われるのではなく、各教科や身近な問題に目を向けて解決しようとする姿が多く見られるようになった。家庭学習に取り組む姿勢が変わり、進んで自主学習に取り組んでいる。」と語っていました。

寿小学校が大切にする「自律して学ぶ力」の涵養は、学習指導要領に示されている「主体性」や「学びに向かう力」の育成につながります。子どもたちは、こうした学びによって、自分を取り巻く社会をより身近に感じながら、自ら道を切り拓く土台を育てていくのだと感じました。

## 波田中学校 明日も学びに行きたくなる学校！



学びの改革パイオニア校として「明日も学びに行きたくなる学校」を目指し、今学期は「子どもが主人公となる2学期に向けて、授業の充実」に挑んでいる波田中学校。研究主任のF先生は、研究通信「PLUS ONE」を定期的に発行し、研究の方向・状況や公開授業のお知らせや先生方の授業の様子などを伝えています（現在NO26号）。特に、普段、観る機会が少ない同僚の先生の授業の「この先生のここがすごい」点を紹介したいという願いから、「突撃！『先生の授業を見せてください！』」シリーズを企画し、授業参観に通い、その様子と共に「今回学ばせていただいたこと」を発信しています。今までに7名の先生方の実践を紹介しました。今後もこの企画を続け、お互い学び合う気風を醸成し、授業の充実に努めていきたい、とF先生は語られます。



生徒全員が参加する対話的な授業 ～横内先生の授業から～  
027 「対話的な授業による、生徒とのやりとり」横内先生の授業  
「突撃！『先生の授業を見せてください！』」の第1回は、横内先生の理科の授業を紹介しました。この日は中津浜総合の授業で、後下から拝見しました。黒板にはグループ別にした授業の収めポイントが示され、各組にモニターを通じ、それぞれのグループの公開結果をクラス全体で追認する場面でした。



### 「子どもが主人公」の授業を目指し、授業の充実を！



太極図

F先生が11月末に実施した数学「平面図形「基本の作図」」（1年）の公開授業では、「国旗当てクイズ」から「韓国の国旗に描かれている太極図を、どうすればきれいにかけるか」という学習問題を設定し、生徒がコンパスと定規を用い、その方法を解明していきました。



初めの個人追究の時間、生徒たちは定規で適当に直径をかいたり、円をきれいに二つに折り直径を導いたりして、定規で測り半径を求め、半径の半分の円を描き太極図をかいていきました。作図の仕方を発表し合う中で「円の中心が求められればかける」ことが確認され、「どうすれば円の中心が求められるか」という課題について4人グループでの追究が始まりました。その中で「前回学習した垂直二等分線を使えば中心が求められそうだ」という見通しが生徒から示され、その見通しを全体で確認しました。授業後、F先生は「生徒が『何とかしたい』という思いから、中心を見つければよいということにたどり着くことが大切であると考えています。仲間と相談することで解決の糸口が見えてくれば、自分たち自身で解決できたという自信につながると考えています」と話されました。一斉指導の中で円の中心の求め方を教えるのではなく、生徒が「協働的な学び」を通して友と相談し追究する学びを見守る先生。「子どもが主人公の授業」への転換を実感した1時間でした。

12月初旬には初任2年目のK先生が英語の授業を公開しました。現在進行形を学んだ生徒に「必要感をもって現在進行形を使い英語でやりとりをしてもらいたい」と願い、生徒が事前に家族や身の回りの写真をタブレットで撮影し、その写真を使って現在進行形を用いコミュニケーションを行う場面を設定しました。



全体でクイズ形式の会話方法を確認した後、4人グループで、順番に撮影した写真を見せながら「This is my brother. What is he doing?」などと現在進行形を使い問かけます。写真から答えがわかった友は「Is he eating food?」などと尋ね、出題者が「Yes, he is. He is eating food.」などと正解か否かを伝えます。

出題する写真は、よく工夫されているので簡単には正解へ辿り着きません。生徒たちは友と相談しながら何をやっているところか真剣に考え、正解かどうか尋ね、意欲的に現在進行形を用い会話しました。

授業公開には何人もの先生方が駆けつけ、子どもの姿から学びを深めました。

授業終了後、K先生は「日頃受け身になりがちな生徒もいつもより積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿が見られ、生徒が必要観を感じる場面設定の重要性を学びました」と手応えを語られました。「子どもが主人公」の授業づくりに向け、教材研究の大切さを改めて共有する機会になりました。